

はやぶさ 第68号 2014年02月14日(金)

=====

発行責任者： 一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

理事長 平本 靖夫

（Captain 平本：（株）I&C・HosBiz センター）

編集責任者： 理事 石川 昌平

◆DVD「経営特くんゲームのすすめ方」と小冊子「経営のゴールド免許の取り方」を
プレゼントします。下記よりお申し込みください。

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

=====

メルマガ「はやぶさ」第68回目の発信です、5回シリーズのその3です。

著者：経営品質セルフアセッサー、当社団法人の認定インストラクター、
（株）I&C・HosBiz センター執行役員 高橋 清

◆ 2014年3月13日(木)開催の、「第5回経営資源パワーアップ講座」は、
筆者が講師をつとめます。直接、生の声を聴いてパワーアップするよい機会です。

第5回経営資源パワーアップ講座の詳細は、以下の URL ページ:トップ画面を参照
ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/schedule.php>

タイトル:今こそ求められる「経営品質向上プログラム」のご紹介 5回シリーズ

***** 本題 *****

その3: 日本経営品質賞「アセスメント基準」の“素晴らしい、凄さ”

アセスメント基準書の内容に触れる前に、「品質」は「品物の質」だから製造業だけの話
でしょうという反応をいただいたので、そこを確認しておきたいと思います。

こうした誤解が生まれてしまった原因は、デミング博士が1950年に来日した時に Quality Control の Quality は「質」であるのに、「品質」(Quality of Goods)と訳してしまったところにあるようです。

マッカーサーのGHQによる復興計画は、食糧・石炭に次いでラジオ製造から始まる製造業が中心であったため、製造業の経営手法というレッテルが貼られてしまいました。もちろん、販売やサービスにも Quality Control は必要です。私たちが追求するのは製品・商品の質だけではなく、設計の質・販売の質・サービスの質・人材の質・管理の質・・・、すなわち経営全体の質なのです。

このようにデミング賞からMB賞を経て日本経営品質賞ができたわけですが、アセスメント基準書の内容はMB賞の焼き直しではなく、本国アメリカを凌駕しているといっても良いほどすばらしいものとなっています。

当初は毎年のように改訂がありましたが、最新の2014年度版は5年振りに大幅な改訂が行われています。経営品質の向上とは、組織が継続的な経営革新に取り組み、「**卓越した経営**」を目指すものです。アセスメント基準書は、経営革新を進めるための「**思考の枠組み**」を示しています。

「**卓越した経営**」を行うために、前提とする価値観をまとめたものが基本理念です。

- 1)顧客本位:組織の目的は顧客価値の創造です。価値の基準を顧客からの評価に置きます。
- 2)独自能力:同質的な競争を避け、競争優位性を確保するには、独自能力の追求が重要です。
- 3)社員重視:社員一人ひとりを大切にし、社員のやる気と能力を引き出すことが重要です。
- 4)社会と調和:社会に貢献し、調和することが重要です。

アセスメント基準書は、「**組織プロフィール**」と経営全体を主要な経営要素に分けてアセスメントを行うための「**8つのカテゴリー**」から構成されています。まずは、組織プロフィールを見ていきましょう。

これは、「**組織の基本情報を整理しておく枠組み**」です。

1. 組織が目指す「理想的な姿」

- 1)組織全員で目指したいと思っている「理想的な姿」
- 2)そのような状態を目指そうと思った背景

2. 現状認識と環境変化

(1)提供価値

- 1) 顧客・市場に提供している商品・サービス
- 2) 提供価値の内容や提供方法の今後の変化予測と課題

(2)顧客認識

- 1) 主要な顧客・市場の規模と特徴、ニーズ(区分毎のニーズと提供価値)
- 2) 顧客・市場の今後の変化予測と課題

3. 競争認識

- 1) 競合相手としている企業・組織
- 2) 競争環境の今後の変化予測と課題
- 3) 競争力の源泉となる重要要因
- 4) 顧客・市場をめぐる競争環境の変化、今後の予測、新たな競争相手

4. 経営資源認識

- 1) 人的資源に関する主要な特徴、影響を与える変化予測
- 2) 主要なノウハウ、技術、知的権利、設備、施設の特徴、影響を与える変化予測
- 3) 財務状況、財務活動の主要な特徴、影響を与える変化予測
- 4) 主要なビジネスパートナーの特徴、求める要求・期待、求められる要求・期待、影響を与える変化予測

5. 変革認識

- 1) 組織価値観に対する変化とその期間
- 2) 主要な戦略課題とその目標

6. 組織情報

顧客・市場規模、事業所拠点、社員数、事業規模、主要な財務データ、ビジネスパートナーの規模など
となっています。

「組織プロフィール」は単なる事業概要ではなく、「組織の経営環境と事業運営の方向性を

明確にして、戦略を考えるための思考の枠組み」なのです。

今回は、これに続く「8つのカテゴリー」を見ていきましょう。

楽しみに。

◆2014年3月13日（木）開催の、「第5回経営資源パワーアップ講座」は、
筆者が講師をつとめます。直接、生の声を聴いてパワーアップするよい機会です。

第5回経営資源パワーアップ講座の詳細は、以下のURLページ：トップ画面を参照
ください。

<http://keiei-tokkunshi.jp/schedule.php>

◆DVD「経営特くんゲームのすすめ方」と小冊子「経営のゴールド免許の取り方」を
プレゼントします。下記よりお申し込みください。

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

***** お知らせ *****

日刊工業新聞社・メトロガイド主催セミナー

◆ 開催日時 2014年3月5日（水） 18:30~20:30

◆ 開催場所 日刊工業新聞社本社・セミナー会場 地下1階
（東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル）

◆ 募集人員 50人

◆ 参加費用 7,000円（税込）

<講演テーマ>

モノづくり系企業の収益力と資金力をアップする

多品種少量短納期型工場管理支援システムと部門別独立採算性管理会計システム

◆講師 平本 靖夫 ((株) I & C・HosBiz センター Captain)

詳細は、HPの案内をご高覧下さい !

<http://keiei-tokkunshi.jp/>

人に「品格」があるように、企業にも「会社の品格」国家にも「国家の品格」があり、人々はそれを評価し判断して取引（ACT）しているのです。

国民一人あたりの借金は、800万円になったと報道されました。（1000兆円の負債）

この原因はどこにあるのでしょうか？ 民意の総合なのです。理念経営では、そう考えます。

現場の状況が、結果を生むのですから・・・見えること（自分に特定の借金）なら、最早パニックでしょう。4人家族で3200万円の住宅ローン並なのです。払えなければ破綻しますね。しかし、我が事には痛みを感じる人は、一握りの人です。

次回は、更に詳しく評価（審査）が述べられますので、熟読いただければ幸いです。

読者の皆様から、ご要望や率直なご意見をいただ来ますと、発信する勇気と力が湧いてきますので、皆様からのメールを心待ちしております。ありがとうございます。

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

=====
一般社団法人 経営特訓士協会（略称：KTGA）

URL <http://keiei-tokkunshi.jp/?mail>

アドレス：happy@keiei-tokkunshi.jp

配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

http://asu12.com/d.php?t=test&m=stone_river@hosbiz.net

=====